

# 会 議 録

会 議 名	令和6年度 総合教育会議		
開 催 日 時	令和6年10月23日(水) 午後1時15分から午後2時05分まで		
開 催 場 所	栄町役場2階第4会議室		
出 席 者 氏 名	委 員	橋 本 浩 (栄町長)	
		藤ヶ崎 功 (栄町教育委員会教育長)	
	職 員 職 氏 名 ( 事 務 局 )	中 島 宣 行 (栄町教育委員会教育長職務代理者)	
		大久保 雅従 (栄町教育委員会委員)	
( 説 明 員 )	濱 田 香 奈 (栄町教育委員会委員)		
町 職 員	安 永 順 子 (栄町教育委員会委員)		
欠 席 委 員 ( 者 ) 氏 名	なし		
会 議 日 程	議 題 1. 「こどもまんなか宣言」について		
会 議 の 公 開 又 は 非 公 開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 原則非公開 <input type="checkbox"/> 全部非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開		
会 議 を 公 開 し ない 理 由			
傍 聴 人 の 数	0 人		

会議等の内容(発言者、発言内容、会議等の経過、決定事項等)

教育次長 (進行)	<p>(開会)</p> <p>本日は橋本町長から栄町総合教育会議運営要綱第4条の規定に基づき、総合教育会議の招集がありましたので、ここに開催いたします。本日の進行は、私勝田が務めさせていただきます。</p> <p>次に、総合教育会議の出席者は、お配りした資料のとおりでございます。</p> <p>会議録は、事務局で作成し、栄町総合教育会議運営要綱第11条の規定により、記録し公表に努めますので、録音することをご了承ください。</p> <p>では、はじめに町長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
橋本町長	<p>改めましてこんにちは。本日総合教育会議を開催しましたところ、皆様お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>平素より、教育行政に対して様々な面からご協力ご支援、ご尽力をいただいていることに、改めて感謝を申し上げます。</p> <p>町では、安食小学校グラウンドの整備に取り組んだり、また安食小学校校舎の長寿命化改修工事に取り組むことになっております。これは、安食小学校が50年以上経過しており、様々な部分で、先日私も安食小学校に行きましたけれども、かなり老朽化が進んでいるところが見受けられますので、安心安全のためにしっかりと進めていかなきゃいけないことだと思っております。</p> <p>また、町内の小中学校体育館への空調整備の設置を今進めております。学校施設のそういった部分では様々な取り組みをさせていただいているところですが、給食費も物価高騰、食材高騰ということで、上がっている訳ではございますが、町も保護者の方々の負担を少しでも軽減しようということで、そのままの給食費を維持して、上がった分は町の方で負担をさせていただくということで努力をさせていただいております。これから子育ての支援、教育環境の充実に改めて力を入れていきたい、取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>今私自身も、栄町の子供たちと、意見交換をする場として、小学校6年生の各学級を訪問し、給食を一緒に食べているのですが、子供ですからざっくばらんな色々な意見が出ます。今まで小学生と中学生の模擬議会をやっておりましたが、模擬議会となると小学生はあのような場で議事を体験するとなると、ちょっと堅苦しくなり過ぎて、本来の素直な意見が出ていないのではないかなと思っております。中学生に関しては模擬議会ですっきりと中学生の意見を、大人と変わらずしっかりと受けていこうと。ただ、小学生に関してはもう少し、子供たちの素直な意見を聞いた方が行政としても非常にありがたいですし、あまり杓子定規になりすぎると子供本来の意見を言えないのかなというのがあります。このような形を取らせていただいております。</p> <p>また、20歳の成人式、20歳の集いで実行委員をつとめている若者と意見の交換の場を設けたり、そういったことにも取り組んでおります。こういう場をとってあげないと、なかなか子供たちの考えとかは、行政運営に取り込みづらい部分もあるので、積極的にそういう場はこれからも作っていこうと思っております。</p>

	<p>また、町としても総合計画や総合戦略の、定住・移住プロジェクト「若い世代や子供たちが住みたいと思うまちを目指し」取り組んでまいります。さらに町を挙げて取り組んでいこうという機運を醸成するため、来年に「栄町こどもまんなか宣言」をさせていただく準備を進めております。</p> <p>「こどもまんなか社会」を実現するための具体的な計画、現在全庁をあげて「こども計画」を策定中でございますが、これ少子化だとか人口減少、こういった流れを抑えていきたい。また未来を担う人材を社会全体で育てていかなければならないということで、地域社会、これを持続可能な社会にするために、子供や若者、子育てをする世帯だけでなく、色んな世代の方が、子供を健やかに育てようという環境を、宣言をして整えていくことで、全ての人にとって幸福感が高まるようなそんな町づくりをしていきたいという思いもあって、子供というところで次の世代にいかにか我々が取り組んでいくのか。子供たちの笑顔を見て、我々も元気をもらってまた町づくりに活かしていくという好循環をですね、好サイクルを生んでいきたいという思いもございますので、本日みなさんの忌憚のないご意見をいただいて、そういったことも含めて行政運営に取り組んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。</p>
<p>教育次長 (進行)</p>	<p>ありがとうございます。それでは、本日の議事に入らせていただきます。栄町総合教育会議議事運営要綱第5条第1項の規定により、町長が議長を務めることになっておりますので、橋本町長議事の進行をよろしく申し上げます。</p>
<p>橋本町長 (議長)</p>	<p>それでは議題の「栄町こどもまんなか宣言」について、福祉・子ども課長から概要の説明をお願いいたします。</p>
<p>福祉・子ども 課長</p>	<p>それでは、お手元の資料に沿いまして説明させていただきます。「栄町こどもまんなか宣言について」という資料でございます。</p> <p>国では、これまでこどもに関する施策の充実に取り組んできたものの、依然として少子化の進行や人口減少に歯止めがかからないことから、「こども基本法」、及び「こども大綱」を定め、全ての子供・若者が保護者や地域社会で支えられ、心身の状況、置かれている環境等に関わらず、その権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現を目指すこととしました。</p> <p>町でも「こどもまんなか社会」を実現すべく「こどもまんなか宣言」を行うものです。</p> <p>1番、背景として、「こども基本法」では、子供が置かれている環境に関わらずその擁護が図られ、「こども政策」を総合的に推進していかなければならないとされております。</p> <p>2番、「こども大綱」においては、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態で生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現を目指すとしております。</p> <p>3番、「こども未来戦略」では、若年人口が急激に減少する2030年代に入るまでがラストチャンスということで、次元の異なる少子化対策と経済成長の実現に不退転の決意で取り組まなければならないとされております。</p>

4番、「町の人口推計」になりますが、令和5年国立社会保障・人口問題研究所が示した人口推計では、栄町の人口は2030年以降、年少人口が減少しまして、2020年には8.17%だったのに対し、2030年で5.88%、2050年には5.30%まで減少すると推計されております。

また、高齢人口は2030年までは増加していく推計ですけれども、2040年を境に減少に転じるものの、2050年には55.2%にまで上昇するというふうに考えられております。

更に、厚生労働省が発表した合計特殊出生率ですが、栄町は県内最下位の0.99%というような状況となっております。

このような背景を踏まえて、町の取り組みとしまして、「こどもまんなか宣言」をするということで、子供や若者の視点に立ち、子供にとって最善の利益を第一に考え、全ての子供が権利を保障されながら幸せに暮らし、地域社会全体で子供を守り、健やかに成長できる町を目指す上で「こどもまんなか宣言」を行うこととしました。

先月ご説明した時と変わりました。宣言自体は町民と町が一体となって宣言していくべきだろうというところで、子供や若者を始め、町民の様々な意見を聞いてそれを反映させていくものであると、今後関係団体へ趣旨を説明していきながら、来年の3月に「こどもまんなか宣言」をしたいと変わりましたので、ご理解いただければと思います。

更に2番としまして、「こどもまんなか計画」ということで、「こどもまんなか社会」実現を目指しまして、今ご説明しました「こどもまんなか宣言」と一体となって、「栄町こども計画」を令和7年3月に策定したいと、今、計画の作業の方も進めております。

それを進めることによって、この『目指す姿』というところで、地域社会全体で子供を守り、育てる意識がみんなに醸成されるというところで、子供と成人、高齢者が一体となって地域ぐるみで子育てを推進していく体制が確保されるということです。

また、子供や若者を「まんなか」とした取組を通し、高齢者をはじめ、全ての町民が将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送っている。

そして、子育ての家庭のライフステージに応じた切れ目ない支援をすることによって、幸せ状態で生活を送ることができて、住み続けたい町となっているということを想像して進めていきたいと考えております。

次にスケジュールですが、本日の総合教育会議での趣旨説明及び意見交換を含め、これからも各団体等の意見交換を進めていきます。その中で来年1月にはパブリックコメントを実施して町民からも意見を募ったうえで、3月に「こども計画」の策定も進めますが一緒に「こどもまんなか宣言」をするという形で進めたいと思っております。

単に子供政策ということではなくて、まちづくりの一つの方法として実施するもので、地域共生社会作りを進めることで、子供はもちろん高齢者を含めた町民の健康づくりや生きがいへも繋げていきたいと考えております。説明としては以上となります。

橋本町長

ありがとうございました。それでは、何かみなさまからご意見ございましたら

(議長)	らお伺いしたと思います。
濱田委員	<p>栄町はすごく子育て支援など頑張ってくださっているなど、私は今、子育ての真っ最中なのですが、これ以上何を具体的にしていくのかなというのを思っておりまして、今町長が小学校へ給食を一緒に食べに行かれたりして、子供たちの意見もすごく聞いてくれたりしているし、グラウンドの整備にも取組んでくださったり、空調を入れるとかそういうこととかにお金を使ってくださったり、すごく感謝なんですけれども、これ以上何をしてくださるのかなと。</p>
福祉・子ども課長	<p>今、少し説明申しましたけれども、「こども計画」自体の中で、宣言も含めて、こういった町にしていきたい。それをするためにはどういった施策が必要かというのを体系立てて計画を今作っていく中で、具体的にはお金を使うものもあれば、意識の醸成といったものもあります。そういったものを計画の方に盛り込んでいきたいと思っておりますので、盛り込んでもらいたい意見を逆にどんどん提案していただければ、今後計画の方に盛り込んでいきたいと思っております。</p>
橋本町長	<p>一つその宣言というのは、具体的にこの子供たちに個別具体的な施策を進めていくことではなくて、むしろ社会全体で子供たちを健やかに育てていってもらうように、今までも栄町は比較的そういうことが色んな地域の活動の中で、本当に年齢関係なくやってくれていた土台と言うか、そういう方たちが沢山いらっしゃるのもわかっています。なので、そういう方たちが今までやってきて、今やっていることを改めて地域で子供たちを育てていこうじゃないかと。そしてこの子供たちがしっかり健やかに育っていくことによって、みんなが幸せな社会になっていこうじゃないかという、一つの象徴的なことであって、これ自体に、例えば個別具体的にこういうことを、というのはこれから宣言を含めて改めて計画を策定していくということになると思います。</p>
濱田委員	ありがとうございます。
橋本町長 (議長) 安永委員	<p>他に何かありますか。</p> <p>子どもの数が減っているということですよ。そうすると、若い世代を町に呼び込む、呼び込まなければ、子供の数も増えていかないということですよ。呼び込むためには、どういうふうにお考えなのかなと。</p>
橋本町長	<p>そうですね、色んな要素が絡み合っていると思います。一つにはやっぱり、今一生懸命進めているのは、職員も全部の課が、教育委員会だけでなく、我々町長部局も生涯学習課も含めて一生懸命取り組んでいるのは、この町で育っている人たちがそのまま残っていってもらえるような環境を作っていこうという定住ですよ。もう一つはこの町に魅力をもってもらって、町外からこの町に住んでいただくというような移住施策、ここは今までずっと10年以上ですよ、力を入れて取り組んできているところです。なので、今現在人口自体は自然減と言いまして、高齢、世帯別でいうと逆三角形なので、どうしても8</p>

0代の方たちが多いので、お亡くなりになられる方などがいらっしゃるの、そこに対して人口自体が減になってしまっているということもあるんですけども、栄町から引っ越して行ってしまう人よりも、栄町に入ってくる人の方が3年連続でプラスに転じています。なので、こういったことを含めて、これから成田空港の機能強化ということもあります。雇用がここで、2030年台、35年くらいを目途に雇用が更に3万人増えるということになっています。第3滑走路の新設と第2滑走路の延伸ですね。このことも含めると、3万人雇用が増えると、そこに家族がいて子どもがいるということになると、その2倍または2.5倍くらいと考えても、6、7万人がこの近辺に住居が必要とされるという時代が来ますので、そういったことを、うちの町も当然ながら30分圏内で空港まで行ける距離なので、定住・移住ということを進めていく上では切っても切り離せないのがまず雇用なんです。雇用がないと、住み続けたくても住みたくても、生活がまず一番基礎としてはありますので、そこに対して雇用というのが一つのチャンスと捉えて、この町にもその恩恵というか波及する部分を少しでも取り込んでいきたいというのが、中長期的な目標としては考えております。そういった、町内にある矢口工業団地の企業さんに興味を持っていただいて、今も日本食研や紀文とか他にも色々な企業の方々が協力してくださって、中学生が見学に行ったり、小学生が行ったりという交流もやっているの、うちの町から働く人たちが増えたりだとか、そういうことをまず大きく取り込んでいかないといけないということが、あります。力を入れていかないといけないことがあると。それと同時に、栄町は対外的に考えた時に、子育てに力を入れている町なんだよ、子供に対して優しい町なんだよ、という雰囲気を作っていくということはずごく重要で、そうした時にやっぱり落ち着いた環境で、田園風景が広がって、自然があり、東京にも一時間程度で出られるという丁度良さとか、そういう部分を享受できる。今成田市や印西市で戸建てを建てようとする5,000万円以上かかるんですね。うちの町だと半分くらいで建てられるということ言えば、それは別に卑下することでも何でもなくて、お家だけにお金をかけるよりも、生活に、子供との豊かな時間を作りたいということにお金をかけたいというご家族も沢山いらっしゃいますから、そういう人たちをターゲットにうちの町に興味を持っていただくということが重要だと思います。

濱田委員

すごく同じようなことを思い、こちらに家を建てさせてもらったのですが、それを発信する力というのがないと。やっぱりみんな知らないから、成田市や印西市に囲まれちゃってるので、やっぱりそちらの方が有名なので行ってしまう人はいっぱいいると思うんです。栄町のよいところを、土地が安いとか、すごくよいところだと思うので、それを発信する何かを、インスタグラムだとか色んなSNSだとか、そういうのを活用してどんどん発信していったら、変わってくるのかなと思います。

橋本町長

そうですね。そこが一つ、今までも若干弱いところだというのは感じております。ただ、今インスタグラムも町の、ドラムくんのインスタも、何かあった時には発信したりするようにしたりだとか、積極的に極力メディアにこちらから連絡を取って、何かあった時にはこの栄町を知ってもらうために取材しても

	<p>らう、紹介してもらおうというような機会は積極的に設けていこうということも考えております。なので、栄町をこういうふうに、ということではなくて、例えば先日、NHKで民謡魂を呼んだりだとか、NHKの歴史探偵はこちらから発信した訳ではないのですが、でもそういうことも栄町を知っていただくという部分ではすごく大事なことになるので、そこは意識してやっていきたいと思っております。</p> <p>また、今年度11月から地域おこし協力隊の方も初めて栄町で採用して、我々行政が少し苦手としている分野を、この方たちにサポートしていただいて、彼らもそういうことを体験しながら栄町を積極的に発信してもらいたいということは、地域おこし協力隊のお二人にこれから期待しているところです。</p>
安永委員	<p>移住・定住ですけれども、今我々の住む周りも高齢の方がお一人住まいだったりして、息子さんや娘さんのところに同居で出ていく。そうすると空き家になるんですね。結構空き家が周りにいっぱいある。そのまま売りに出すこともあるけれども、町として空き家対策を何か色んな面で考えていただけることってというのは可能ですか。</p>
橋本町長	<p>今、空き家空き地に対しては、かなり取り組んでいるところでもあります。一番空き家の問題として、今現実的な課題として、所有者の方がそれを、例えば売却するとか、そういう意思を示していただければ、その家というのは新しい買い手のところに伝わって繋がっていくということが出来るのですが、ただ持っているような状況が、空き家の部分では課題になっております。ですから、今も担当課が、例えば空き家バンクというものをやっているんですけれども、そういったところへの登録の案内というのは、今必ずやってもらうようにしています。</p> <p>法律も実は今まで矛盾というかジレンマがあって、家を持ってて、それを更地にすると、そちらの方が税金が高くなってしまっていたんです。固定資産税。そうすると更地にして何か次に活用しようということではなくて、今あるまま、そのまま放置している方が税金が安いということになっていました。</p> <p>しかし、今年度から法律が変わり、これからは、そういう意味では活用が進んでいくのかなと我々も期待をしておりますし、とにかく、いずれにせよ空いたお家を、どんな活用でもよいから、次の方なり、それをどう活用していくのか、というのが非常に重要なところなので、そういうのも含めて、新規ということだけではなくて、今ある既存のものもどのように循環させていくのかということも含めてこれから重要になってくると思います。</p>
安永委員	<p>どんどん入ってきてもらいたい。でも、月8万円くらいのアパート代を払うのであれば、戸建てに入って、庭があって、子育てに一番適した環境がそこにある。そうすると6万円か7万円くらいでそこに入居できれば、もっと若い方も入って来やすいかなと思います。</p>
橋本町長	<p>そうですね。今本当に、いわゆる栄町にある住宅メーカーでも、リノベーション、今のものを活用しながら、新しいお家の如し、如しというより本当に新築になってしまうんですよ、耐震性から何から、色んなことの技術もすごく</p>

	<p>高まっているので、そういう意味ではそういうことも活用し、もしくは本当に新しいお家に住まわりたいという方もいるだろうし、そういう方にもできるだけ対応して、準備してあげて、ということはいくらからね。民間のメーカーさんとか企業も含めて技術を持っているので、そういう発信をして色んな状況の中で活用してもらいたいと思います。</p>
中島委員	<p>今頭の中にあったら教えていただきたいのですが、今空き家というのは栄町に何件くらいあるのでしょうか。</p>
橋本町長	<p>結構あります。色んな地域に。方々で。確かに少ない地区と、結構出ている地区もあるんですけども、いわゆる空き家というのはあります。ただ、所有者が管理せず、放っておいてある状態である家という意味では、数としては少ないです。それが一番困ってしまっているんですけども。</p> <p>あとは、自分たちの意思で売却するなり、活用してもらおうとすることができるのは、やっぱり所有者の意思というのが明確にならないと、こっちが勝手にはできない。当たり前ですけども、所有権はその人のものですからね。こちらでということはいくらから、なかなか難しいので、現状その空き家バンクに登録してくださいとか、活用してくださいということ、我々はそういった方たちに伝えるということが、それだけはしっかりやろうということで、担当課もしっかりやっております。</p>
中島委員	<p>その時に、従来から栄町に住んでいらっしゃる方と、我々のように夫婦で栄町に転入をして、ここを拠点にしてやっていこうという決意をした人間との、その二種類の人間が栄町にはいるかと思うんですけども、どちらの方が空き家が多いのか。恐らく後者の方が多いのであろうと思います。どれくらいの割合なのかなと。</p>
橋本町長	<p>多分、いわゆる団地の空き家ももちろん出てきているのは確かなんですけども、ただこれから、それよりももっと課題なのは、地元、もともと住んでいる方たちの次の子供たちが出て行ってしまっ、後を継ぐ人がいないというような状況というのが、これから一番多くなっていくのかなと思います。</p>
中島委員	<p>これから出てきますよね。</p>
橋本町長	<p>間違いないです。割と団地の方というのは、比較的、売るといふ意思があれば、ある程度売れるんですよ。でも、やはり地元の方となると、どうしても売るには古民家に本当に住みたいとかという需要を持った特定の人ではないと、なかなか難しかったりだとか、そこは非常に大きな課題になるし、関心とか、危機感を持っていますし、危機感を持ってどうするんだと言ったらあれなんですけれども。でもそこはどうか考えていかなければいけない部分だと思います。</p>
大久保委員	<p>小学生と給食を食べているというのは、クラスで食べているのでしょうか。</p>



橋本町長	<p>6年生、全部の小学校の6年生の子達、今少し寂しいのですが、2クラスあるのが安食小だけで、他の小学校は今1クラスだけなんです。なので、6年生の子達全員と食べています。ですから、安食小は1組と2組両方やって、他の小学校、まだ安食台小と布鎌小これからなんですけれども、この間竜角寺台小に行かせていただきまして、全部の小学校と。</p>
大久保委員	<p>もしできるのであれば、中学校なんですけれども、4クラスくらいだと思うんですよ、3年生。1年生から全部だと難しいと思うので、3年生ですと一番入学試験どうしようとか、部活は終わっていると思いますが、7月だと部活で選手に選ばれたとか、選ばれなかったとか、また恋愛の悩みだとかもあるだろうし、橋本町長若いし、非常におおらかに色んな、大谷の話したり、上手ですので、クラスの中でやると一回でも一緒に食べてもらおうと、その子供たちも、町長と食べるということは、一生に一度だと思うんですよ。そういうので、よい印象で、一旦子供たちは高校行って、大学行って、出ると思うんですよ。でも、この町でよかったなというようなことが必ずあると思うので、もし交渉していただければ、今年は無理でも来年度か再来年度にね、一番不安な時期なので、はっきり言って学校面でよいことばかりではないと思うんですよ。中学校に入るといじめもあるし、不登校もあるし、喧嘩も多いんですよ。そんな時に、橋本町長から、「阪神淡路大震災の時にボランティアに行ってきたよ。」というような話を少しでも、すごい、経験や体験をした話をしてもらえると、短い時間でもやってもらえると、生の声を聞いてよいのではないかなと思います。</p> <p>もう一つは、キッズランド。私、孫が非常に喜んでいて、あそこにおいて大暴れをしてくるんですけれども、あのようなのをもっと若いお母さん同士で話合っって初めて行って、うちの嫁も知らない人と知り合ったりできますので、あれを本当にもっと活用できるとよいと思いました。</p> <p>小学生はだめなんです。ただ、小さい子が一人家族にいる、これはよいのかなと。小学生もまだ子どもなんです。行って遊びたいということがあるので。小さい子がいないとだめなのですが、小学校低学年くらいは、まだよいよということで、どんどん入ってもらえたらよいのではないかなと思いました。</p>
橋本町長	<p>中学生ともやりたいんですけれどもね。元々模擬議会をやっていて、その中で子供たちの声をというので小学生で始まって、参考として、どこかで中学生ともやっぱりそういう場を持てたら、私も嬉しいし楽しいので、どこかのタイミングでやればなと思います。なかなか全クラスになると、4クラスですもんね、厳しいかなと思います。</p>
大久保委員	<p>すぐではなくても。子供たち、食べるということを、どらまめとか町のお米とかを給食で、いかにこの地域が恵まれているかを再認識できる。特に栄町は食べるものについてはよいものが多いので、そういうことを大いに町の人が宣伝して、都会に行ったら貧弱なものしか食べられないんですよ。ファーストフードとか。ここの魅力の一つに食文化がありますので、そういうことも町の担当の方がどんどん子供たちに発信してもらえればよいかなと思います。</p>

橋本町長	<p>そうですね。本当に、町で一生懸命作ってくださっている、お米は栄町のお米を給食に使っていますけれども、色んなところでいちご狩りだとか、今もやってくださったりだとか、そういう場というのはお金では買えない貴重な栄町の特産品を知っていただく、また栄町のそういう人たちの好意を知る場でもあって、私も小学生の時、川崎さんのいちご園でいちご狩りしましたけれども、その時は当たり前のごとくいちごを狩って、美味しいなと思っていましたけれども、今になって感謝していますね。あの時も受入れてくれるというのは本当に大変で、それをずっと今も続けてくださっているのは本当にありがたいことだと、今になって改めて思いますので、それはできるだけご協力いただける場所だったり、栄町の自然とそういうことに繋がられるような、触れられるような場というのは意識して作っていったらいいなと思っております。</p>
福祉・子ども課長	<p>キッズランドの件なんですけれども、キッズランドは子育て中の保護者の方たちの情報交換だったりとか、仲間づくりがメインになっているので、どうしても小学校就学前のお子さんをお持ちの保護者の方が、子供を連れて一緒に来るという考え方で、今後、今作っている「こども計画」の中で小学生を含めた、子供の居場所という考え方で、今「こども食堂」という問題もありますしね、そういったことも含めて、どういったところに、どういう居場所で、誰がやるのか、高齢者も含めてね、そういった人もいますので、どういった形で進められたらよいかということ、今後計画の中で、来年度やれなくても、何年かのうちにこういった形で進めたいということをお示しできればと考えております。</p>
安永委員	<p>昨日も私、犬の散歩の帰りに、キッズランドからお帰りになった親子さんいらして、その方は横浜から引っ越してきて、団地の中の更地に家を建てて住まわれたんです。周りは全然知らない人ばかりだったんです。ホームページをみていて、キッズランドがあるということを知って行ったら、コロナの少し後だったので予約制だったそうです。今は予約は関係なく、いつでも行って遊べるようになったそうです。そこでママ友ができて、幼稚園へ上がればママ友等ができるだろうけれども、キッズランドでママ友ができて、子供もお友達になって、そこで子育ての悩みなどもお互いに話をしたから、少し気持ちが楽になって、子供とちゃんと向き合えるようになったんです、とおっしゃってました。そして、うちの犬と町長のところのクルミちゃんがじゃれていたら、最初怖がっていたのですが、大丈夫だよと言ったら、そのお子さんも「ワンワンお口あったかい。」とか「ワンワンの首のところあったかい」とか、そういう親子で話していても出てこないような会話が出てきて、すごく嬉しいとおっしゃっていたんですよ。やっぱり、キッズランドとかがあると、小さい町でも子育てがしやすい町ということが、ちゃんとそういう場所があるよということを発信してもらったり、認定こども園とか保育園があって待機児童がないんですよ。</p>
福祉・子ども課長	<p>定義上ではないです。本人が第一、第二、第三まで希望を取らないとそういう形にはならない。</p>

安永委員	<p>そういうところが、今は保育してくれるところがないから仕事にも行けないとか、そういう若い人。やっぱり共働きしないと生活が思うように行かないとか、あると思うんですね。そういう点では、こんな小さな町でも、自然はあるし、子育てしやすいし、ということ、を、どんどん発信していただければ、おのずと若い人も集まってくるかなと思います。</p>
橋本町長	<p>そうですね。例えば前新田の地区であったり、あそこも売り出せば10区画、20区画くらい売り出すと、だいたい30代、40代、20代の方も越えてきて完売になっています。</p> <p>布鎌の南の旧利根川さんというお店があったと思いますけれども、12区画か13区画あったのですが、あそこもすぐ埋まってしまい、今全員住んでいます。今、南ヶ丘のところもあと2棟になっているので、こちらも恐らくじきに埋まってくれるのかなと思います。</p> <p>子供だけじゃなくて、孤立しちゃうのはダメで、高齢者の方も今、当然一人暮らしになったり、認知症になったりとか、日本全体の社会問題だと思うけれども、うちの町も例外ではなくて、とにかく孤立するということ、をできるだけ避けないといけないと思います。</p> <p>子供も子育てもすごくプレッシャーも大変で、お母さん方にとっては、特に引っ越してきた時って友達もいないし、子育てって子供と1対1で、旦那さんは働いているし、1対1で向き合っていて、この子泣き止んでくれないとか、下痢になってしまったけど、病気なのではないかとか、すごく考えてしまうわけですよ。その時に、孤立しちゃいけない、相談できる場所、もしくは相談できる仲間、友達という意味では、キッズランドのようなそういう場所を確保していかなければならないというのは、そういうことだと思います。そういうことがやれるというのは、実は、何かものが作れるということではなくてむしろそういう連携とかネットワークとか人間関係とか、そういうことなので、実はそういうことが魅力ある町には必要で、実はそういうことが本当の意味でこの町の良さを知ってもらうことであったり、選ぶ基準というのは、むしろそういうことの方が大事なことはないかなと。優先順位が。そうじゃない人もいるかもしれないけれども、そこを大切にしていっていかないといけない。それは子供だけでなく、世代関係なくそういう町にしていかなければいけないというのは、その一つの「こどもまんなか宣言」というのは、子供なんだけれども、先ほど言ったように、周りもそういう地域を作っていこうという一つのシンボルだと思っています。</p>
安永委員	<p>そのためには、そのママがおっしゃるには小児科がないと。そこら辺の誘致はどうなんでしょうね。</p>
橋本町長	<p>そうですね、これは私も非常に小児科は必要だと思っています。今現状では、後藤医院や小川医院の方で、週に2回か3回ではありますが、小児科を間口で、この曜日のこの時間は小児科でという形で対応していただいております。本当は小児科を誘致、個人病院で十分なのでできればよいのですが、例えば北総さかえ病院だとかがうちの町で言うと中核病院なので、小児科に限</p>

	<p>らずいわゆる診療科目を増やしてもらおうような、これからはそういうことも考えていかないとと思います。</p>
安永委員	<p>毎日の診療でなくてもよいから、火曜日は耳鼻科とかね、そういう町にない科も作っていただけるとね。</p>
橋本町長	<p>そこは非常に、できるだけそれは理想でありその思いは持っているのですが、ではそれを行政として進めていくにあたってどこまでそれを、実際のところお金がかかりますので。病院勝手にやってください。呼んでください。はいわかりました、行きます。という訳にはいきません。これだけのものを補助するから、来てくれるという現実もあるので、そこは色んなバランスをみて、色んなことをトータルで考えて、これからはそういったことも当然想定して進めていかなければならないと思います。</p>
橋本町長 (議長)	<p>他にありますか。</p>
中島委員	<p>最後、もしなければ。これは国の施策と組んで、栄町では令和7年の3月までに「こどもまんなか宣言」を出すと。これは栄町自体のことなのでしょうか。国の施策に基づいて、これをやろうとしているのか。そこら辺のところを教えていただければと思います。</p>
福祉・子ども 課長	<p>国の方でも、「こどもまんなか社会」の実現を目指しています。これは全国にそういう形でやりますよ、というふうに言っていますけれども、あとは各自治体の方がどういうふうにするかですけれども、町としては、町づくりの一つの手法として「こどもまんなか宣言」として進めたいと、町独自で考えております。</p>
中島委員	<p>これ自体は非常によいことだろうと思うんですけども、できれば長期的にやっていただきたいと思います。短期間だけではなくて。国の方が、止めようということになる可能性があるのです。</p>
福祉・子ども 課長	<p>この宣言という言葉を使わせていただいているので、「宣言をやめました」ということはまずないです。宣言したことによって町はそれで進めるということで、ずっと続きますので、基本はずっとそれを持ったままで町づくりを考えていきます。</p>
中島委員	<p>子育てや教育は非常に長い時間かかりますし、これを踏まえたうえで継続してもらえればなと思います。</p>
橋本町長	<p>いずれにせよ、千葉県でも「こどもまんなかサポーター宣言」を発出しています。県でも。各自治体が宣言する、しないというのは、もちろん栄町として宣言をしていこうということがまず一つあるということと、先ほども言ったけれども、できるだけ、色んな町民の方たちの意見を踏まえて、その中で町民と一緒に宣言をするということが一番重要だと思います。この宣言をして、うちの</p>

<p>橋本町長 (議長)</p>	<p>町ではちゃんと宣言することになりますので、そこは国がどうのとか県がどうのとかということではなくて、この趣旨自体は町としてしっかり宣言をしてやっっていこうということです。</p> <p>他に何かございますでしょうか。</p> <p>それでは「こどもまんなか宣言」をはじめ、多岐に渡り皆さんから貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。ご意見を参考にしながら担当課を中心に内部で検討させていただきまして、「栄町こどもまんなか宣言」「こどもまんなか社会」、その他の意見もございましたので、計画づくりにいかして参りたいと思います。</p> <p>以上を持ちまして本日の議題は終了となりました。議事の進行を事務局にお願いいたします。</p>
<p>教育次長 (進行)</p>	<p>橋本町長、ありがとうございました。本日の総合教育会議はこれを持ちまして終了とさせていただきたいと思います。町長はこの後公務がございますので、ここで退席となります。ありがとうございました。</p> <p>(閉会)</p>